

GIDWR 岐阜県感染症発生動向調査週報

2015 年第 49 週

(11/30~12/6)

11 月報合併号

Gifu Infectious Diseases Weekly Report 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

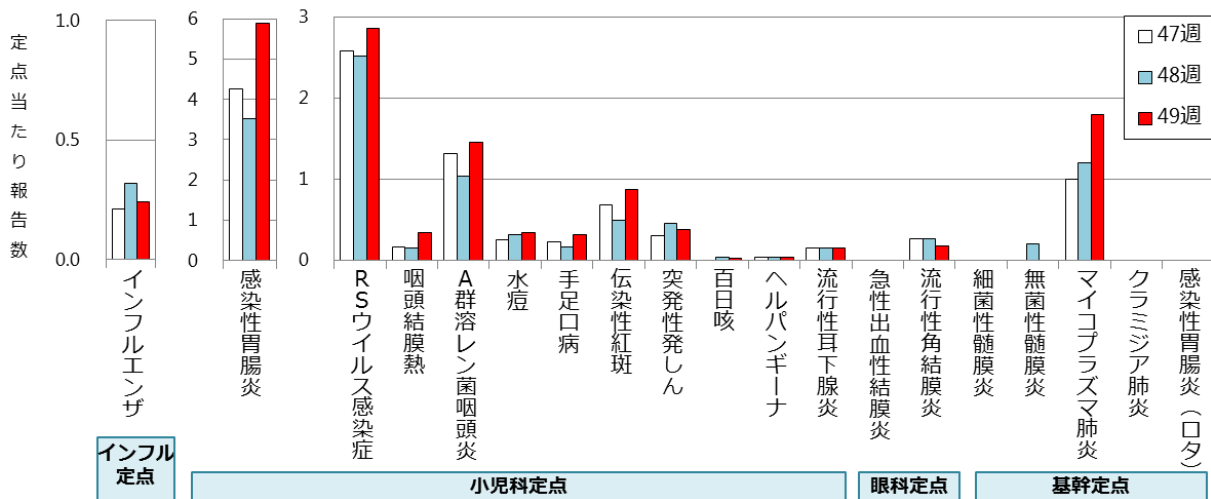
- ◇ RSウイルス感染症は過去最高の患者報告数となっています。 →トピックス
- ◇ 感染性胃腸炎が増加しています。今後の動向に注意が必要です。
- ◇ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が増加しています。
- ◇ 伝染性紅斑は継続して患者が報告されていますので、今後も注意が必要です。

■ 定点把握対象疾患 (インフルエンザ 定点:87 か所、小児科定点:53 か所、眼科定点:11 か所、基幹定点:5 か所)

● 警報・注意報レベルの保健所がある疾患

	疾患名	保健所 (定点当たり報告数)
警報レベル	なし	—
注意報レベル	なし	—

● 直近 3 週の比較



■ 全数把握対象疾患

● 今週届出分

- 1 類感染症：なし
- 2 類感染症：結核 9 例
- 3 類感染症：なし
- 4 類感染症：ツツガムシ病 2 例、レジオネラ症 2 例
- 5 類感染症：劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、後天性免疫不全症候群 1 例、
侵襲性肺炎球菌感染症 1 例、水痘（入院例）1 例、梅毒 1 例、
播種性クリプトコックス症 2 例

● 2015 年累計

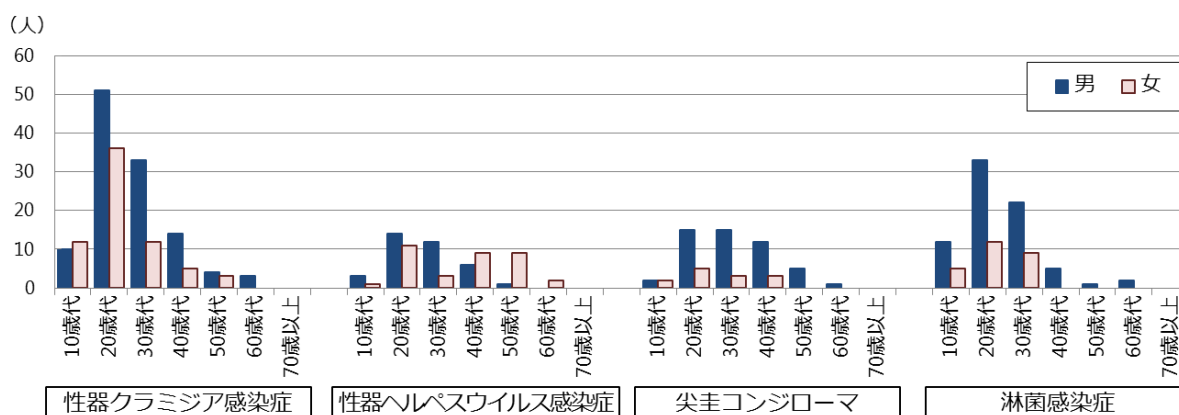
1 類感染症	なし	
2 類感染症	結核	394 例
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	26 例
4 類感染症	つつが虫病	13 例
	デング熱	6 例
5 類感染症	アメーバ赤痢	16 例
	ウイルス性肝炎	3 例
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	8 例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	5 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3 例
	後天性免疫不全症候群	22 例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	5 例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	3 例
	腸チフス	1 例
	マラリア	1 例
	レジオネラ症	26 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	37 例
	水痘（入院例）	7 例
	梅毒	16 例
	播種性クリプトコックス症	4 例
	破傷風	1 例
	風しん	1 例
	麻しん	1 例

■月報告定点把握対象疾患 <11月>

●性感染症（STD定点：15か所）

疾患名	報告数（定点当たり）					
	11月	男	女	10月	9月	8月
性器クラミジア感染症	18 (1.20)	11	7	19 (1.27)	15 (1.00)	13 (0.87)
性器ヘルペスウイルス感染症	5 (0.33)	3	2	7 (0.47)	11 (0.73)	4 (0.27)
尖圭コンジローマ	4 (0.27)	4	-	6 (0.40)	2 (0.13)	10 (0.67)
淋菌感染症	4 (0.27)	2	2	10 (0.67)	10 (0.67)	10 (0.67)

年齢階級別報告数（2015年1月～11月）



●薬剤耐性菌感染症（基幹定点：5か所）

疾患名	11月報告数 (定点当たり)	年齢群等
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	16 (3.20)	50歳代1例、60歳代4例、70歳以上11例
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	なし	-
薬剤耐性緑膿菌感染症	なし	-

■病原体検出情報速報

病原体定点等から提出された検体の病原体（遺伝子を含む）検索結果（11月12日～12月9日結果判明分）

臨床診断名	病原体名	検出数 (人)	検体採取年月
腸管出血性大腸菌感染症	腸管出血性大腸菌 O157:H7 VT2	4	2015年9月 2015年10月
無菌性髄膜炎	コクサッキーウイルス A9型	1	2015年9月

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターのHPをご覧ください。

感染症発生動向調査週報（IDWR） <http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr.html>

病原微生物検出情報（IASR） <http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr.html>

■トピックス

《RSウイルス感染症》

◆ 県内で過去最高の報告数となっています

RSウイルス感染症は、この冬、全国的に大きな流行となっています。

県内でも11月以降患者が急増しており、第49週には、県内53の小児科定点医療機関からの患者報告数が151例（定点当たり2.85人）と、報告の始まった2003年以降最も高い値となっています。

流行が始まった当初は岐阜地区を中心に患者が増加していましたが、現在では県内の全域で患者が報告されています。

今後も流行が続くと予想されますので、しばらくは動向に注意が必要です。

◆ 乳児や基礎疾患のあるお子さんは特に注意が必要な疾患です

RSウイルス感染症は、生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児が一度は感染し、生涯にわたり感染を繰り返すとされています。症状は軽いかぜ症状から重い肺炎まで様々ですが、特に乳児期早期（生後数週間～数ヵ月）に初感染すると、細気管支炎や肺炎など重篤な症状を引き起こす場合があります。

また、早産児や低出生体重児、心肺系の基礎疾患や免疫不全などのある2歳未満の小児は重症化のリスクが高く、注意が必要です。

◆ 乳幼児のいる家庭や施設では感染に注意を

RSウイルス感染症の主な感染経路は飛沫感染や接触感染です。年長児や成人がRSウイルスに再感染した場合は症状が軽いため、RSウイルス感染症と気づかずに乳幼児への感染源となることがあります。

咳などの呼吸器症状がある年長児や成人は、可能な限り乳幼児との接触を避けることが乳幼児の発症予防には重要です。

接触感染対策としては、手洗いを励行し、乳幼児が触ったり口に入れたりする可能性のあるもの（おもちゃや手すりなど）をアルコールや塩素系消毒薬などでこまめに消毒することが有効です。

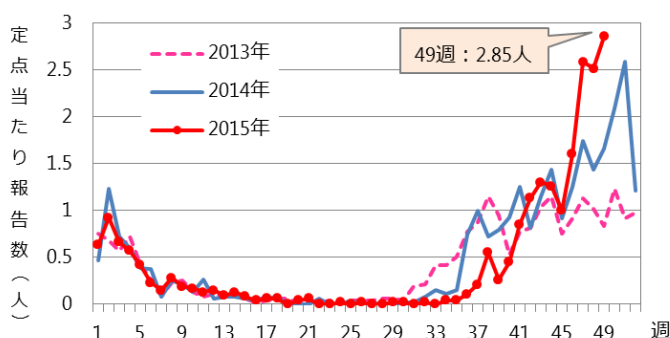
★感染症法における取扱い

RSウイルス感染症は、感染症法において5類感染症定点把握対象疾患に定められており、全国約3,100か所（岐阜県53か所）の小児科定点から毎週報告がなされています。届出基準・届出様式はこちらをご覧ください。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/11223/kansenshouhou-kijun.html>

（保健医療課 HP）

RSウイルス感染症患者報告数（岐阜県：53定点）



保健所別患者報告数 ()内は定点当たり報告数

保健所	47週	48週	49週
岐阜市	20 (2.22)	42 (4.67)	38 (4.22)
岐阜	66 (6.60)	29 (2.90)	24 (2.40)
西濃	15 (1.67)	21 (2.33)	18 (2.00)
関	14 (2.80)	10 (2.00)	14 (2.80)
中濃	12 (2.40)	14 (2.80)	18 (3.60)
東濃	1 (0.20)	14 (2.80)	12 (2.40)
恵那	1 (0.25)	2 (0.50)	10 (2.50)
飛騨	8 (1.33)	1 (0.17)	17 (2.83)
県全体	137 (2.58)	133 (2.51)	151 (2.85)